

みずほCustomer Desk Report 2019/10/11号(As of 2019/10/10)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値 GBP/USD	107.37 AUD/USD
TKY 9:00AM	107.23	1.0984	117.88	1.2212	0.6720
SYD-NY High	108.02	1.1034	118.94	1.2469	0.6774
SYD-NY Low	107.04	1.0972	117.58	1.2210	0.6710
NY 5:00 PM	107.97	1.1006	118.80	1.2441	0.6761
NY DOW	26,496.67	150.66	日本2年債	-0.3100	1.00bp
NASDAQ	7,950.78	47.04	日本10年債	-0.2100	0.00bp
S&P	2,938.13	18.73	米国2年債	1.5444	7.66bp
日経平均	21,551.98	95.60	米国5年債	1.4877	8.00bp
TOPIX	1,581.42	▲ 0.28	米国10年債	1.6690	8.27bp
シカゴ日経先物	21,700	105	独10年債	-0.4730	7.75bp
ロンドンFT	7,186.36	19.86	英10年債	0.5870	12.70bp
DAX	12,164.20	69.94	豪10年債	0.8885	0.70bp
ハンセン指数	25,707.93	25.12	USDJPY 1M Vol	6.75	▲0.15%
上海総合	2,947.71	22.85	USDJPY 3M Vol	6.63	▲0.08%
NY金	1,500.90	▲ 11.90	USDJPY 6M Vol	6.88	▲0.05%
WTI	53.55	0.96	USDJPY 1M 25RR	-1.15	Yen Call Over
CRB指数	173.58	0.51	EURJPY 3M Vol	7.03	0.04%
ドルインデックス	98.69	▲ 0.43	EURJPY 6M Vol	7.38	0.03%

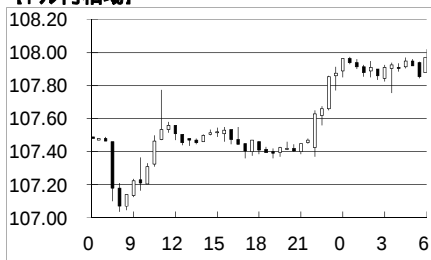
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
10月10日	09:00	日 雨宮日銀副総裁 講演	-	-
	15:45	仏 鉱工業生産(前月比/前年比)	8月 -0.9%/-1.4%	0.3%/0.1%
	15:45	仏 製造業生産(前月比/前年比)	8月 -0.8%/-1.6%	0.3%/-0.2%
	17:30	英 鉱工業生産(前月比/前年比)	8月 -0.6%/-1.8%	0.1%/-0.8%
	17:30	英 製造業生産(前月比/前年比)	8月 -0.7%/-1.7%	0.2%/-0.4%
	21:30	米 CPI(前月比/前年比)	9月 0%/1.7%	0.1%/1.8%
	21:30	米 新規失業保険申請件数	-	210k 220k

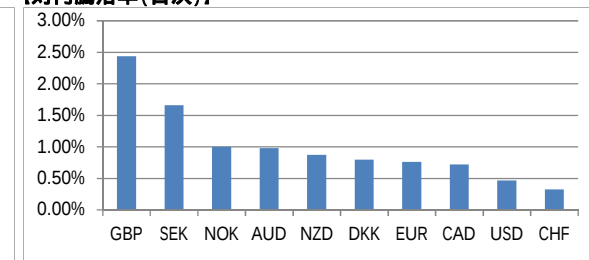
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
10月11日	15:00	独 CPI(前月比/前年比)・確報	9月 0%/1.2%	0%/1.2%
	17:00	PO コスタ・ポルトガル中銀総裁 講演	-	-
	21:00	米 カシュカリ・ミネアポリス連銀総裁 講演	-	-
	23:00	米 ミシガン大学消費者マインド・速報	10月 92	93.2
10月12日	02:15	米 ローゼングレン・ボストン連銀総裁 講演	-	-

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【マーケットインプレッション】インドルピーと原油価格の関係

インドルピーは9月初旬に年初来安値を更新したが、9月後半にかけては上昇する展開となった。この背景には、米金融緩和やインド国内での法人税減税等の影響があるが、インドルピー相場を見る上で重要な「原油相場」の影響があるといえる。

インドのエネルギー事情としては、まずインドの1次エネルギー消費量は年間7億トン、世界消費量の5.3%を占める。一次エネルギー消費の内訳でみると、石炭が約4割、石油が約2割となっている。石炭が最大のエネルギー供給源となっているが、石炭需要の8割を国内で調達。一方で、石油の原料となる原油については消費量のおよそ80%(約330万バレル/1日)を輸入に依存。石油については過去20年間、原油生産量合計は年率2%未満の伸びで緩やかに増加してきたものの、国内需要の増加に対応できていないことから輸入依存率が高い。こうした背景を持つインドにおいては、原油価格が上昇すれば、それが外国人投資家の嫌う経常赤字の拡大へとつながることからインドルピーは売られやすくなる。逆もまた然りで、9月に原油価格は、サウジアラビアの石油生産能力が想定よりも早期に回復していることや米中貿易協議合意への不透明感やトランプ大統領に対する弾劾調査開始の決定等の要因により原油価格が下落したことで、インドルピーの下支え要因となった可能性がある。

2040年までにインドの経済規模は現状の5倍以上に拡大し、世界最大の人口を抱える国に成長することが見込まれているが、これに伴いエネルギー消費量は2倍増するとも言われている。国内生産量を増加させるなどの対策もとられているものの、需要に追いついていない状況が今後も継続することになることが予想され、原油価格とインドルピーの関係は今後も続きそうだ。(高根)

東京 東京時間のドル円は107.23レベルでオープン。オープン前から米中次官級貿易協議に進展なしとの報道で円高進行していたものの、米政府がファーウェイへの製品供給を一部米企業に許可する方針と報道されると一気に107.77まで上昇。その後は売り売りに押され107.50を付近で推移し、結局107.53レベルで海外時間に渡った。

ロンドン ロンドン市場のドル円は、107.53レベルでオープン。米中ヘッドライン待ちのドル円は小動き。107.36-55の小幅値動き後に107.45レベルでNYに渡った。ユーロドルは、1.0986でオープン。域内の長期金利が上昇する流れにユーロ買いとなり1.1034まで堅調に推移。先月のECB会合議事録公表後に少し売り戻され1.1024でNYに渡った。ポンドドルは、1.2217でオープン。本日ジョンソン英首相とトランプ大統領との会談の結果を待つポンドは小動き。堅調なユーロにつれ1.2265まで買われる場面もあったが1.2234でNYに渡った。(ロンドン・ルフィ 00531 444 179 神田)

ニューヨーク 海外市場のドル円は、米中貿易協議関連のヘッドラインに上下する展開。'9-10日開催の米中次官級貿易交渉では進展がなかったと伝わると107.10まで下落するが、「米政府が中国電子機器大手への製品供給を一部米企業に許可」との報道に107.77まで上昇。買い一巡後、107.40近辺でもみ合い、107.45レベルでNYオープン。朝方は米9月CPIが予想を下回ると、一時107.38まで下落するが、米金利が上げ幅を拡大する中、売りは長続きせず、107.65まで反発上昇。その後、トランプ大統領が「11日に中国の劉副首相と会う」と述べ、米中貿易協議の進展期待にドル買い円売りが強まり、107.97をつける。午後は売り売りに押され、107.75まで下落する場面もあったが、米中貿易協議への楽観ムードにサポートされ、高値圏での推移が続く。終盤にトランプ大統領が「中国との交渉は非常にうまくいった」と述べ、108.02をタッチするが、小幅反落し、107.97レベルでクローズ。一方、海外市場のユーロドルは短期筋のユーロ買いが持ち込まれているとの話もあり、1.1000レベルを上抜け、ストップを巻き込みながら1.1020まで上昇。独金利の上昇にもサポートされ、1.1034まで上昇し、1.1024でNYオープン。朝方は米金利上昇を背景にドル買いが進み、1.1002まで下落。リスクの円売りに上昇するユーロにサポートされ、1.1021まで上昇する場面もあったが、終盤にかけて1.1000近辺までじりじりと反落し、1.1006でクローズ。本日NY午前中に「英国とアイルランドの両首相、離脱合意への道筋を見出せることで一致」と伝わり、ブレグジット交渉の進展期待が強まり、ポンドは対ドルで約2%上昇した。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当:高根・原田 TEL:03-3242-7070 FAX:03-3211-5825 LDN 00531-444-179 NY 00531-113-682

	竹内	加藤	関	光石	岡本	上野	原田	玉井	森谷	ブル	ベア
Today	ベア	ブル	ベア	ブル	ベア	ブル	ブル	ベア	ベア	4	5
Week	ベア	ベア	ベア	ブル	ブル	ブル	ブル	ベア	ベア	4	5